



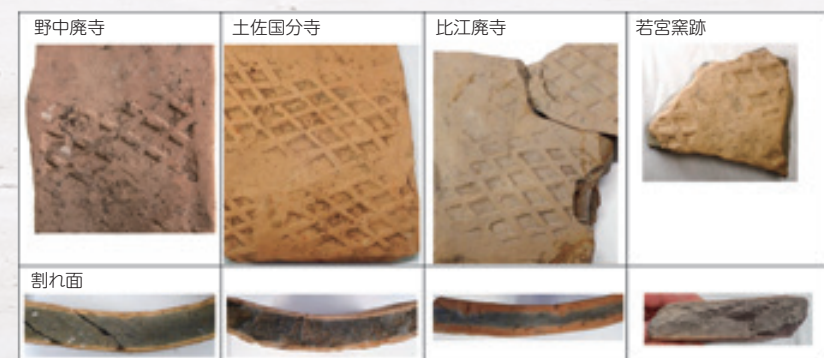
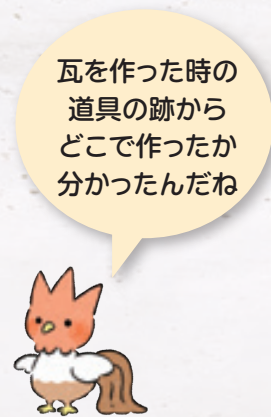
古代寺院の瓦の葺き方の例(下野薬師寺復元模型)

時期に創建し、同じ瓦が葺かれたことが分かります。

そのうちの1種類は若宮窯跡という、野中廃寺から約3km南西の現在の高知市介良に位置する瓦窯で焼かれたことが分かりました。この瓦は表面は黄白色や橙色ですが、割れ面の中心が黒色で、あたかもあんこサンドのような特徴的な見えます。幅約8cmの板に1辺1cm程度の菱形を横に3〜4個並ぶように刻んだ板で叩いた圧痕が残されています。同じ生産地で同じ工具を使っている状況から、同じ瓦職人が作っていたと考えられます。同じ瓦が土佐国分寺や比江廃寺にも使われています。



野中廃寺平瓦凸面のタタキの種類



野中廃寺と同じ叩き板の痕跡がある瓦

**おわりに**

このように、野中廃寺は土佐国分寺との共通点が非常に多い寺院です。共通点をまとめてみると、

1. 正確に南北の位置関係にある
2. 伽藍の傾き(建物の向き)が似ている
3. 金堂基壇の規模が大きい
4. 同じ窯で生産された瓦を使用等が挙げられます。

こうした共通点は、地域の有力者が国分寺に近い氏寺を建立していることから、国分寺造営に協力的で、当時国が勧めていた仏教政策を好意的に受け止

**野中廃寺指定記念シンポジウム**  
『野中廃寺の謎に迫る』

■ 日時／10月3日(土) 13:00~16:30

■ 場所／地域交流センター MIARE !  
1階 ホール  
(南国市大堀甲 2117)

■ 講師／近江俊秀(奈良大学教授)  
大橋泰夫(島根大学名誉教授)

■ 申込／不要 ■ 参加費／無料

■ 問い合わせ／生涯学習課文化財係 ☎088-802-6062



南国市で18年ぶりの史跡新指定!

# 国史跡野中廃寺跡の謎

2026年2月17日に南国市元町にある野中廃寺跡が新たに国の史跡に指定されました。高知県内では13件目、南国市では4件目の史跡となりました。その野中廃寺の意義と謎に迫ります。



**野中廃寺と国分寺**

野中廃寺は近年の調査成果から土佐国分寺と同時期に創建されたことが判明しました。国分寺といえば、741年に聖武天皇の国分寺建立の詔が発布されたことにより、国ごとに建立されたことは歴史の教科書で広く知られており、全国で史跡に指定されている国分寺、国分尼寺があります。しかし、それ以外に国分寺建立や国の仏教政策について各地での受け止め方を示すものは案外知られていないのではないのでしょうか。

**野中廃寺の立地**

野中廃寺のある高知県中央部には、香長平野という県内最大の穀倉地帯が広がっており、県内で8ヶ所しか見つかっていない古代寺院のうち、野中廃寺をはじめとして土佐国分寺、比江廃寺の3つの寺がこの地区に集中しています。この中で、野中廃寺は現在の市中心部でJR線路を挟んで南北に位置しています。



野中廃寺の伽藍配置と土佐国分寺

野中廃寺から真北に約2kmの位置には土佐国分寺が位置しており、正確に南北の位置関係になっています。

**野中廃寺の調査成果**

野中廃寺は西に金堂、東に塔、南に中門、北に講堂と、法起寺式という伽藍配置をとっています。他に僧侶が生活するための僧房2棟、倉庫と考えられる総柱建物1棟などが見つかっています。伽藍(建物)の方位は、真北から約7度東に傾いた方位で揃っており、土佐国

分寺の傾きと近いことが分かっています。

また、金堂基壇の規模は、通常の氏寺(地域の有力者が建てた寺)が東西幅15m程度であるのに対し、野中廃寺では25m以上と国分寺に匹敵する規模です。

古代寺院の研究では、軒瓦の文様から都や他の寺との関係性や創建時期を読み解きますが、野中廃寺では独自の文様の瓦しかなかったため、はつきりしませんでした。しかし平瓦の製作時の痕跡から他の寺や製作地との関係に迫ることができました。

古代の平瓦は通常、凹面には布目、凸面には叩き板の痕跡(タタキ)が残されています。凸面に注目すると、野中廃寺には、縄を巻き付けた長い叩き板で全体を叩いた長縄タタキ、縄を巻き付けた短い叩き板でスタンパ状に叩いた短縄タタキ、叩き板に格子文様が刻まれている格子タタキの3種類があります。

この中で、格子タタキを細かく観察すると、作った場所や瓦を作る職人にまで迫ることができます。野中廃寺の格子タタキ平瓦は、15種類に分類でき、そのうちの9種類は土佐国分寺と同じ叩き板で調整したものです。つまり国分寺と同じ